

暮らしを支える人たちの声を聞け！ 危機的状况を見て見ぬふり。現場は今、限界です！

井口えみの現状認識

医療・介護・運送など、私たちの生活を支えている現場では、人手不足や過酷な労働環境により、深刻な声が上がっています。倒産や離職が相次ぐ中でも、支え続けてくれる人たちがいます。区長が「ケアする人をケアする」と語るなら、実効性ある支援を今こそ形にすべきです。

国民全員が物価高騰の影響を受けていることは理解しています。ですが、全区民を対象として少額ずつばらまきだけの支援に、いったい何の意味があるのでしょうか。今、本当に支えるべきなのは、医療・介護・運送といった暮らしの最前線を支えている人たちです。それなのに、区は「国や都の役割割だ」と言って、自分たちの責任からまるで逃れようとしているかのようです。現場に一番近い杉並区が動かずに、誰が動くのか。区民の生活を守る責任を、今こそ真剣に果たすべきです。

声を上げ
全力で応援
します

運送業界の危機！

第4回定例会 一般質問 令和6年11月21日

Q 井口 えみ 2024年問題や燃料費の高騰、人材不足が深刻化している現実を踏まえて、運送業界に対してどのような認識をお持ちですか？

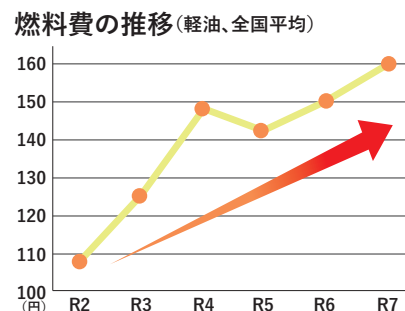
A 区長 国民生活や経済活動に不可欠な社会インフラであるにもかかわらず、困難の中にあるものと認識しています。

【運送業界を取り巻く現実】

中小トラック運送事業者を取り巻く状況は、年々厳しさを増しています。全産業平均と比べると――

- 年間所得は約2割低い水準
- 労働時間は約372時間多く、1.17倍に
- 価格転嫁率は全業種の中でも最下位とされ、適正な取引が困難

倒産件数は過去10年で最多を記録し、その99%が中小事業者です。このまま抜本的な対策を講じなければ、2030年には輸送力が約34%不足、約9億トンの物流が滞るという予測もあります。



このままでは2030年には物流の34%が止まる！

輸送力の減少



井口えみの視点

私たちの暮らしに欠かせない食品や日用品の90%以上は、トラックで運ばれています。この“見えないライフライン”を支えているのが、トラック運送業です。日常だけでなく、能登半島地震やコロナ禍といった非常時にも、物流を止めずに支えてきた彼らは、まさに地域社会の生命線です。

プロフィール

杉並区議会議員（無所属・都民ファーストの会）

井口 えみ

保健福祉委員会
災害対策防犯特別委員会

- 1988年3月 杉並区生まれ
O型 うお座 辰年
- 杉並区立沓掛小・國學院久我山中・高、明治大学法学部卒
- 大学時代は明大スポーツ新聞部の記者としてラグビー・体操・自転車競技を担当
- 22歳 都内の旅行会社に就職し、北京事務所でも勤務。
- 26歳 銀座のアパレル店で、語学力を活かしインバウンド対応。
- 32歳 実家の運送会社に経営参画。トラックの運転もこなします。



- 荻窪消防団第一分団所属
- 東京青年会議所杉並区委員会所属
- 2023年4月 初当選
杉並区議会議員
（無所属・都民ファーストの会）
- 家族：夫、子ども2人（1男1女）、犬2匹

「未来を守るのは、
いまの世代の責任」

子どもたちが、杉並で希望を持って生きていけるように。暮らしも仕事も経験してきたからこそ、よりよい社会を、次の世代へつなげていきたいと思っています。



みなさまの 声をお聞かせください

FAX 03-4496-4267 Email emi@suginami-iguchi.com

杉並区議会議員 無所属 都民ファーストの会

杉並区議会REPORT 2025.3

井口 えみ

〒167-0033
杉並区清水3-29-13井荻バレス201
TEL:03-6824-1338
FAX:03-4496-4267
E-mail: emi@suginami-iguchi.com

議事録、議会映像
はQRコードからご
覧いただけます。



笑みがあふれる杉並の未来に全力

みんなの笑みがあふれる杉並の未来に向けて「生まれ育った杉並への恩返し」が私の使命です。真逆の立場に立つ岸本区長に真っ向から政策論争を挑んでいる区議会での活動報告です。ぜひ、みなさまのご意見ご要望をお聞かせください。

井口えみの現状認識

子どもたちの命に直結する医療機関との関係性は、前区政と比べると明らかに細くなっています。さらに、教育委員会の相次ぐ不祥事、給食費無償化に伴う食材の質の低下、学童クラブ待機児童の増加など、保護者からは不安の声がやみません。「子育て世代が安心して暮らせるまちから遠のいてしまっている」という声が寄せられています。

第2回定例会 一般質問 令和6年6月6日

小児救急への区長の無理解を問う

Q 井口 えみ

河北病院が24時間体制の小児救急から撤退し、重症心身障害児のレスパイト入院（短期入所）も中止となりました。区から正確な情報が届かず、利用者に混乱が広がる中、事業主体は都であるとして区外施設を紹介するだけの、他人任せな対応には納得できません。区内で安心して通える小児救急医療の存続を求める声は、非常に強くあります。また、思春期・青年期の“心の問題”に対応する専門機関として、河北病院は令和8年開設予定の区立児童相談所の連携先にもなるはずでした。

A 区長 お互いの認識を共有した上で、病院の判断を尊重します。
A 保健所長 情報提供には問題がなかったものと認識しています。

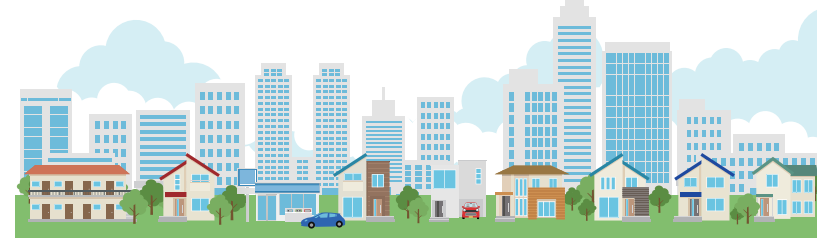
井口えみの視点

区民の命と健康を守ることは、自治体の基本的な責任です。前区政では、コロナ初期における迅速な医療連携と支援がありました。今の区政は、河北病院小児科の重要性を理解せず、「子どもに寄り添う姿勢」を演出しているに過ぎません。「ケアする人をケアする」と語る一方で、現場の厳しい状況を放置した結果が、今回の撤退です。その責任が、区長自身の現場理解の乏しさにあることは明らかです。

区長の無策と独り善がりが区民の不利益に直結

区長は前区政の病院建て替えを含めたまちづくり計画の優位性を理解できず公然と批判。加えて建築費の急騰、病院の厳しい経営事情も認識せず、**区長の行政トップとしての”感度の鈍さ”はピカイチ**。河北病院の小児救急撤退に関して区長は全く無策で、結局は区民が不利益をこうむる結果を招いています。

困ります



岸本区政の
見せかけと
現実

本当に子どもに寄り添っている？

予算特別委員会 令和7年3月12日

ブレ続ける区長 演出区政・岸本劇場はNO！

公約実現のための「子どもの居場所づくり基本方針」策定

選挙公約 前区政下で失われた児童館を元の数に戻す

今回の方針 中学生優先館として7館の「児童館」をつくる

区民からは「公約違反だ」との厳しい声も

MEMO 前区政での児童館再編の目的は…

- 1～3年生の低学年層と乳幼児親子の居場所ニーズが増加
- 中高生は1館平均1日2人程度の利用
- 学童・乳幼児スペースへの再編を進行
- 法的整理として「児童館」の名称を廃止



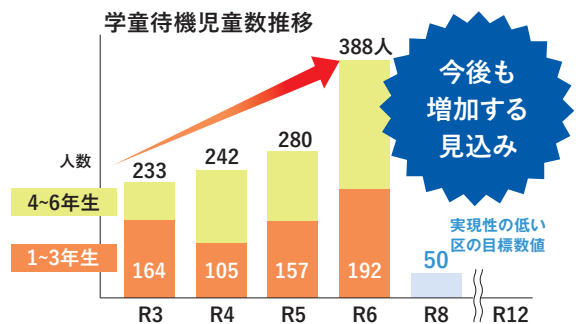
問題です つまり、実質的には“居場所の拡充”でした。形式的な「児童館廃止」にもかかわらず「子どもの居場所を奪った」と喧伝した現区長の姿勢は、**政治的パフォーマンスに過ぎません。**

井口えみの視点

「子どもの居場所基本方針」は、名称や区分を変えながら前区政の施設再編を継続しているだけ。「止める、止められる」と声を荒げ当選したものの、本当に止めれば「区民が不利益を被る」とみんなに説得され、素直に認めれば謝罪や撤回に追い込まれてしまう。それをごまかすための演出区政を続けているのが実態ではないでしょうか。

学童クラブ待機児童問題解消は、 見せかけの「解消」へ？

- 学童クラブ増設の計画は示されず…
- 令和9年度から学童クラブの利用対象を見直し予定
現在：1～6年生
見直し後：原則1～3年生及び障害等のある児童



井口えみの視点

働く保護者を支えるための学童クラブは保育需要の増加に伴って当然同じように増加します。特に1～3年生の低学年の学童クラブは最優先で整備しなければなりません。

申込対象を狭めて待機児童数を減らす。それは、「見かけ上の解消」に過ぎません。本当に必要としている家庭のニーズに当てているのか、今一度見直すべきです。

誰のため？

すでに破綻している岸本区長の

徹底追及
区長が主役の区政

区民切り捨て出来レース？ 荻窪三庭園の指定管理者選定を問う

第3回定例会 一般質問 令和6年9月13日
岸本区長の指定管理者選定に疑惑あり
荻窪三庭園(荻外荘公園・大田黒公園・角川庭園)でも岸本区長の指定管理者選定はおかしなことばかりです。選定委員に、指定管理者となった事業者虎玄(虎屋グループ)の広告塔とも言える活躍をしてきた甲斐みのり氏が委嘱され、最初から出来レースだった疑いがあります。さらに、プロポーザル資料の中には庭園の維持管理の委託先として競合するライバル事業者の一員であるH社の社名が無断で使われていました。選定には数々の疑惑が指摘されており、地元事業者優先発注は消え、「虚偽的答弁」「議会軽視」など次々と岸本区政の実態が明るみに出てきています。荻外荘を丁寧に育ててきた前区長の理念とは、まったく異なる姿勢が浮かび上がっています。

官製談合防止法を恐れた区の答弁？
荻窪三庭園の選定について、東京都庁内でも疑問の声が上がっています。一方、区長は「なんら問題なし」との立場を貫いています。提案書には競合会社H社の社名が無断記載されていたにもかかわらず、区は確認もヒアリングも行わずに選定を進めました。東京都は「所管課がチェックし、選定委員会が事業者に確認すべきだった」と指摘。

「これではルールの意味がない」と厳しい見解を示しています。平成15年に制定された官製談合防止法は、公務員の不正関与を防ぐ法律。区長はこの法を恐れて、強弁しているように見えてなりません。

MEMO

前区長は、荻外荘が歴史を無視して開発されることに危機感を持ち、民間ディベロッパーが区に相談にきた当初から、保存に向けた機運を区民の皆さまとともに高めてきました。また荻外荘は、杉並の歴史だけでなく、日本の歴史の転換点にもなった重要な場所として、史跡指定をうけ、復原保存を進めてきました。

荻外荘 前区長の2つの基本的考え方

- 近衛文磨公が自決した部屋は大切に保存・維持
- 「陽明文庫を守る」という近衛家の意志を最大限尊重

→その姿勢が、現在の陽明文庫と区との信頼関係の基礎となっています。

※近衛文磨 皇室に次ぐ家柄・五摂家筆頭第30代当主で、元内閣総理大臣。

※陽明文庫 近衛文磨が荻外荘を入手したのとはほぼ同時期の昭和13年、近衛家に伝世する貴重な資料が散逸しないようにと設立した国内でも有数の特殊な歴史資料館

2024年(令和6年)10月1日(火曜日)

杉並区

3荻外荘など庭園 競合相手を「想定」で記載

指定管理者選定に疑義

都政新報 2024年10月1日



日本の歴史の転換点になった荻外荘。

区民より自分イメージアップ 公約撤回を認めない岸本区長の資質を問う

第1回定例会 一般質問 令和7年2月18日
杉並の道路計画を自身の演出に使うな
区長を題材にしたドキュメンタリー映画では、道路計画の中止を掲げた政治未経験の女性が区民の支持を得たように描かれています。

選挙前の岸本区長の発言

- 令和4年5月26日、YouTube公式サイトで、「現行計画はむちゃくちゃな計画だ」と批判。
- 令和4年6月5日、X(旧Twitter)で、「修正可能な過ちを認めるのに遅すぎることはない」と書き込み。

これらの発言は、中止や白紙撤回を示唆するものであり、公職に立候補しようとする者の重い発言です。

就任後の岸本区長の行動

ところが舌の根も乾かない就任2ヶ月後の本会議で「中止や作為的に遅らせるようなことはしない」と答弁。道路整備の推進を目的とした要望活動をする大会(東京都道路整備促進大会等)にも区として参加。いまや用地折衝はどんどん進められています。

井口えみの視点

外面では中止のように見せかけ、庁内や議会では実質的に公約を撤回しています。そして「見直す」と繰り返すばかり。区民をごまかし、まるで改革者であるかのような演出に都市計画道路が使われたと言っても過言ではありません。議会でその説明を求めると「選挙前の発言を議会で質問するのはふさわしくない」と答弁拒否。区長の発言の軽さ、道義的責任の欠如に政治家としての資質を疑います。

岸本区長 答弁拒否

公約を反故にする区長を徹底追及！！

Q 井口 えみ

区長は道路計画の中止という公約が実現不可能だと自覚しながら掲げていたのか？出来もしないことを喧伝するのはポピュリズムそのものです。

A 区長

都市計画道路をつくる未来も作らない未来も、都市計画が幸せなもの不幸せなものがあると言ったのは、このプロセスによってどちらの結果になったとしても、合意に基づいた計画であるかどうかということが民主主義の根幹的に大切なことだと考えております。

Q 井口 えみ

選挙の争点としたにもかかわらず、区長となり権限を得た今、実現への道筋も努力も示せていません。きちんと区民に説明すべきです。この際、率直に公約の撤回を謝罪をするべきだと思います。その気はないのか伺います。

A 区長

公約の撤回や謝罪をすることはございません。修正を試みながら、新しいやり方について活路を開き、その理解を区民の皆様にも今後とも協力を求め、理解を求めてまいりたいと思います。

井口えみの視点

何事においても選挙時にはいわゆる反対派に便乗し意図的に区民の分断を作り出し、区長になったら平気がかつての支援者を切り捨てるような行動こそ、岸本区政の矛盾を一層際立たせているのではないのでしょうか。

公約詐欺の区長を問う！

岸本区長は就任後、道路整備事業では明らかにブレた姿勢を続けながら自身の公約の間違いをごまかし、責任逃れを続けています。実現不可能だと自覚して「道路計画の中止」を公約に掲げていたとしたらまさに公約詐欺ではないのでしょうか。まるで救世主のように登場し、自分の承認欲求を満たすものばかりに関心を寄せ、公約など知らぬ存ぜぬを決め込む姿勢を続けているのは、区民のための区政からは遠のくばかりです。

撤回なし

理解の範囲が狭い区長 木を見て森を見ない付け焼き刃を批判

第1回定例会 一般質問 令和7年2月18日
善福寺川の治水対策事業に本腰を入れるべき
区長が推すグリーンインフラと、杉並区も参加している東京河川改修促進連盟で宣言された「治水事業の強力な推進」のハード整備とは明らかにギャップがあります。区長は善福寺川の調整池計画を知ったのは令和4年12月だと議会で答弁していますが、杉並100年の計ともいわれる重要計画に着任後5ヶ月も区から説明を受けていないのは不自然です。杉並は度重なる水害に見舞われながらも先人達が治水対策をおこない、克服してきた歴史があります。美辞麗句だけ並べ立て、これまで杉並区が積み上げてきた努力を水泡に帰すおそれが区長の姿勢で明らかになりました。

水害対策待ったなし！！

区長は、具体的な効果が見込める調整池の整備より、効果が不明瞭なグリーンインフラを優先。緊急性の高い水害への意識が低すぎます。また、「オスプレイ基地反対」を掲げて県知事選に立候補した学者を区のグリーンインフラアドバイザーとして起用。区政の私物化との批判を招いています。

低すぎです

続柄記載に総務省は再考を求める

決算特別委員会 令和6年10月4日
Q 井口 えみ
事実婚カップルに使用される続柄「夫(未届)」が長崎県大村市で認められました。総務省は再考を求めています。区長はSNSではかなり前向きな投稿をしています。なぜ区長は各自治体に先駆けて導入することに積極的なんですか。

A 区民 課長
公証のできる住民票となるように国に働きかけていきたいと検討しています。

井口えみの視点
住民票とは公証制度であり、住民本人の意思によって記載情報を決めるものではありません。法令によって定められた客観的な事実を記載するものです。住民票制度に首長のイデオロギーが入れば制度の安定性や信頼性を傷つけることになります。公平公正な権力行使とは程遠い、自身のための住民票の政治利用です。

無策でもバラマキしっかり。 財政規律と議会軽視の岸本区長に異議あり

予算特別委員会 令和7年3月10日
13億円のカタログギフトは事前運動？
昨年、区長は「納税された税金を公平公正に再分配することが基礎自治体の主要な役割」と述べました。しかし、今年は約13億円を投じる「防災・防犯用品カタログギフトの配布」を目玉施策にしています。これは区長の知名度や人気を高めることを目的にした、いわゆるバラマキであり、来年の区長選挙を見据えた「露骨な事前運動」との区民の声もあります。昨今の国や地方の政策を見ても現場の切実な声とは裏腹にその政策目的や優先度が精査されたか疑わしい中で「～無償化」のオンパレードになってはいないかと思うのです。税金を使った買収とも揶揄されるこうした流れは財政規律の視点からは看過できません。

井口えみの総括

これでいいのか杉並区

政策偏重

公約撤回

謝罪拒否

政策の論拠が偏っています

区政運営が次々と破綻

追及されても知らんぷり

弓ヶ浜クラブと 富士学園が廃止…。 杉並の子どもたちの思い出の地

予算特別委員会 令和7年3月10日
旧富士学園(山梨県忍野村)
山中湖や忍野八海に近い立地にある、昭和39年開設の宿泊施設。主に小学校5年生の移動教室の場として親しまれ、親子三代で利用した家庭も多くあります。震災後の10年間は、福島の子どものための憩いの場としても活用されました。今後、インバウンド需要が高まり宿泊先確保の難しさが増す中、区が独自に施設を持つ意義は大きいはず。一度手放してしまえば、もう戻ることはありません。

旧弓ヶ浜クラブ(静岡県南伊豆町)
杉並区は日本初の光化学スモッグ発生の地。その対策として昭和49年、喘息児童の転地療養施設「南伊豆健康学園」が作られ、その隣接地に昭和55年「弓ヶ浜クラブ」が開設。以後、移動教室の場として長年活用されてきました。現在、区はこの施設をアスベストが残ったまま建物付きで売却しようとしています。理由は解体費の節約。しかし、これは自治体としての責任を放棄した不誠実な手放し方と言わざるを得ません。

民営化宿泊施設コニファーいわびつ(群馬県東吾妻町)

平成6年に約90億円を投じて建設された「すぎなみ自然村」は、平成14年に区民向けの宿泊施設「コニファーいわびつ」としてリニューアルされました。宿泊補助や無料送迎バスもあり、多くの区民に親しまれています。また東日本大震災では避難者受け入れ施設として活用され、秋篠宮ご夫妻が慰問に訪れた歴史的施設でもあります。しかし、売却予定価格はわずか2,700万円。杉並の誇りと交流の象徴が、いとも簡単に売却されようとしています。

悲しいです

区民が育んできた文化をトップが消していく
岸本区長は「人口減少社会の中で一極集中は持続可能ではなく、地方創生を進めることが不可欠」などと言いながら、なぜ長年にわたり自治体間の交流の原点であった施設を簡単に手放そうとするのか説明出来ていません。自治体間のつながりを大切にし、売却を押し止めていた前区長が退任した途端、杉並に愛着も関心もない区長のもとで、一気に廃止が進められました。区民にとって、一生の思い出として語り継がれてきた施設が失われていくことは、本当に寂しいことです。杉並で暮らしたこともなく、歴史や伝統への理解も乏しい現区長が、次々と私たちの育んできた文化を消していく姿勢には、強い危機感を覚えます。郷土愛やふるさと意識といったアイデンティティは、地域を大切に思う気持ちの根幹です。これらの施設は、そうした気持ちを育むために、大きな役割を果たしてきたのです。

写真は各施設HPより